

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26460827

研究課題名(和文)地域の社会的凝集性、集団的エフィカシーならびに帰属意識が健康リスクを低減する効果

研究課題名(英文)The impact of social cohesiveness, collective efficacy, and sense of belonging on health promotion

研究代表者

高野 健人 (Takano, Takehito)

東京医科歯科大学・医学部・非常勤講師

研究者番号：80126234

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：社会的凝集性、集団的エフィカシーならびに帰属意識について、指標分析、キーインフォマントインタビュー、住民調査を実施し、居住地域に対する帰属意識を形成する都市の社会的物理的な環境条件、市区町村レベルの疾病傷病リスクと社会的凝集性、集団的エフィカシーおよび帰属意識を含む地域関連指標との関連と、各要素の寄与を検証した。市区町村レベルの地域健康関連指数を作成し、住民の健康水準と地域指標の関連モデルを得た。全国の市区町村を悪性新生物、糖尿病および脳血管疾患、心疾患、不慮の事故の4分類による健康指標とその差について分析を行い、健康指標水準の差異と健康関連要因指標の差異の関連を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The determinants of population health include the social and economic environment, living environment conditions and health care resources. Social cohesiveness, collective efficacy, and sense of belonging also impact health status. We conducted 1) community and regional indicator analyses, 2) key informant interviews, 3) questionnaire surveys to identify sense of belonging enhancing factors and to explore the attributes of relating factors in a comprehensive health promotion model. Results of Oaxaca-Blinder decomposition analysis of health and environmental indicators by municipalities showed correlations between health indicators and environmental indicators showed different patterns according to the level of health of the communities. Diversities of social cohesiveness, collective efficacy, and sense of belonging in the communities were regarded to explain different impacts on health promotion.

研究分野：地域保健

キーワード：健康指標 社会関係資本 健康リスク 健康支援環境 健康都市 社会的凝集性 帰属意識 集団的エフィカシー

1. 研究開始当初の背景

居住地域の社会経済的条件、都市基盤の整備状況、環境条件、保健医療サービスおよび居住環境条件が、住民の健康水準と関連していることが明らかにされている。また、居住地域に対する地域の社会的凝集性、社会関係資本ならびに帰属意識と健康との関係が解明されつつある。

居住地域に対する帰属意識は、「近隣の物理的・社会的環境への満足感やルーツの感覚」(Riger, et al. 1981)、「地域の価値観・倫理観への同調」(松本 1986)、「地域社会の一員としての実感や参加の感覚」(引地、他 2005)と捉えられる。高齢者など、地域における社会的活動の比重が相対的に高い人々では、生活の質や well-being の観点から重要な概念である。

申請者らは、東京都の複数の自治体の高齢者 3000 人を対象に前向きコホート研究を行い、調査開始時の健康状態および社会経済要因を調整した後、近隣への帰属意識の高い人で、5年後の生存率が高いことを明らかにした(Morita, Takano, et al, Social Science & Medicine 2010)。

居住地域に対する帰属意識と健康との関連において、集団的エフィカシーおよび社会的凝集性が影響することが、Bourdieu らの概念より推察されるが、疾病及び傷病リスク低減におけるこれらの相対的な関連性は実証されていない。また、多くの場合、これらの概念は地域のつながりに関連した概念として大局的に取り扱われることが多く、それぞれが明確に定義・区別されておらず、これらの指標間の関連性は解明されてはいない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)居住地域に対する帰属意識を形成する都市の社会・物理的環境条件を明らかにし、(2)帰属意識、社会関係資本、社会的凝集性の疾病及び傷病リスク低減のメカニズムを解明し、(3)健康決定要因包括マルチレベルモデルにおいて各要因の相対的寄与度を明らかにする、ことである。

3. 研究の方法

(1)社会的凝集性、集団的エフィカシーの指標の開発

先行研究分析ならびに自治体聞き取り調査を実施し、社会的凝集性、集団的エフィカシー、帰属意識の評価項目を検討した。自治体調査は、健康都市連合日本支部の加盟都市において、地域保健担当者を対象にインタビ

ューを行い、住民の地域への帰属意識、近所、友人・知人、親戚とのつきあいや交流、地域文化活動について、地域における実際の活動と地域調査の質問項目について、聞き取りを行った。

(2)帰属意識、社会関係資本、社会的凝集性と疾病及び傷病リスクとの関連分析

包括的な健康推進プログラムを展開している自治体において、1.の社会的凝集性、集団的エフィカシーの指標、健康リスクおよび疾病クラスタをもちいて調査地域住民を対象とした自記式質問票を作成し、65歳以上の住民を対象に自記式質問票調査を実施し、予防可能な疾病・傷害の発生と予防技能、社会的凝集性との関連を検証した。

(3)健康決定要因包括マルチレベルモデルにおける各要因の分析

健康指標、健康関連地域指標データベースの作成：全国の市区町村について、総務省、厚生労働省、環境省、文部科学省、警察庁等による統計調査データ、都道府県公開の資料、民間企業やNPO団体等の所有する資料より2000項目以上の指標について複数年分を収集し、データベースを作成した。健康都市連合日本支部の加盟41都市に対して調査を行い、26都市について医療レセプト関係データ、特定健康診査関係データ、検診・健診関係データ、消防救急関係データ、警察署関係データ、住民を対象とした調査データ、健康都市の活動に関するデータを複数年分収集した。

健康決定要因包括マルチレベルモデルにおける分析：全国市区町村の健康リスクおよび関連指標のデータベースをもちいて、健康リスク、疾病の組み合わせによるクラスタ分類、健康水準の5年・10年推移の特徴、関連する地域の社会的凝集性、帰属意識についての指標と、それらの寄与について分析を行った。

4. 研究成果

(1)社会的凝集性、集団的エフィカシーの指標の開発

社会的凝集性、集団的エフィカシーを含む社会的関係資本、本地域への帰属意識、並びに地域のつながりに関連する概念について、先行研究より質問項目を収集し、整理した。さらに、地域の保健担当者への聞き取り調査の結果をもとに、関連項目を追加した。

社会的関係資本項目は、近所、友人・知人、

親戚とのつきあいや交流および相互信頼度、地域の活動や集まりへの参加度等に分類した。帰属意識には、土地・地域集団・地域文化に対する肯定的な認識、居住地域への愛着、定住意向、ルーツの感覚、地域社会の一員としての認識、地域での生活や交流への好感度を含めた。帰属意識と町内内/自治会レベルで集計した社会関係資本および社会的凝集性の関連を非線形回帰モデルにより分析し、帰属意識を推進する社会関係資本および社会的凝集性の条件について検討した。

(2) 帰属意識、社会関係資本、社会的凝集性と疾病及び傷病リスクとの関連分析

健康都市連合日本支部連合に加盟している包括的な健康推進プログラムを展開している自治体において、住民基本台帳から無作為に抽出された3000名の65歳以上の住民を対象に質問紙を郵送し、回答を得た2167名について、予防可能な疾病・傷害の発生と予防技能、社会的凝集性との関連について分析を行った。

予防可能な疾病・傷害の発生率は、男性27.0%、女性43.0%であった。疾病・傷害の発生は、男性では同居形態、親族友人との交流が、女性では、親族友人との交流の有無が関連していた。また、独居、近所づきあいが、親族友人との交流がない高齢者において、性別、年齢にかかわらず、疾病・傷害の予防に関連する対処行動をとっておらず、交流の少ない高齢者における疾病・傷害予防につながる対処行動の選択抑制が示唆された。

(3) 健康決定要因包括マルチレベルモデルにおける各要因の分析

市区町村レベルの平均寿命、1~4歳、65~69歳、75~79歳での平均余命のいずれかと r^2 乗で0.1以上の相関を有する地域指数を130種類以上得た。これらの指標よりステップワイズ法により変数を選択し、健康水準の調整済み決定係数が0.8となる住民の健康水準と地域指標の関連モデルを得た。死因別死亡割合に対してEMアルゴリズムによるクラスタ分析を行い、悪性新生物死亡の割合が相対的に高い自治体、不慮の事故、糖尿病および脳血管疾患による死亡の割合が高い自治体、心疾患による死亡の割合が高い自治体などのクラスタに分類できることが示された。

健康リスク・疾病のクラスタについては、悪性新生物、糖尿病および脳血管疾患、心疾患、不慮の事故の4分類をもちいて解析を行った。全国の市区町村を健康指標の高低で分

類しその差についてOaxaca-Blinder decomposition分析を行い、健康指標の高低には、健康関連要因の差異が有意に関連していることが確認された。さらに、健康関連要因と健康指標との関連性に関して、健康指標が高い市区町村と低い市区町村で違いがあることが示された。

健康指標の水準の異なる市区町村において、健康水準と健康関連指標との関係が異なること、地域の社会的凝集性、集団的エフィカシー、帰属意識の形成要因が、健康決定要因包括モデルに影響をもたらすことを明らかにした。市区町村の健康政策立案にあたっては、健康関連指標の改善のみでなく、健康指標の水準の異なる市区町村においては、健康関連指標の影響が異なることをふまえた施策の検討が重要となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計6件)

清野薫子, 中村桂子, 高野健人, Marie O'Neill, 「人間関係のつながり」という視点からみた高齢者の熱中症リスクに関する地域調査 結果. 87回日本衛生学会学術総会 フェニックスシーガイアリゾート(宮崎県, 宮崎市) 2017年03月26日~2017年03月28日

Kaoruko Seino, Keiko Nakamura, Marie O'Neill. Heat-coping practices and social interactions among elderly urban dwellers. The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia(招待講演)(国際学会) 2017年03月01日~2017年03月03日 日本学術会議会議室(東京都, 港区)

Keiko Nakamura. Nationwide program for prevention and control of lifestyle related disease, Japan. 8th NCD Forum Seminar. (招待講演)(国際学会) 2016年09月28日~2016年09月28日 ソウル市(韓国)

Keiko Nakamura. The Foresight Approach towards Healthy and Resilient Cities. The 7th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities. (招待講演)(国際学会) 2016年08月29日~2016年08月29日 原州市(韓

国)

中村桂子 健康支援環境 第12回日本健康都市連合大会(招待講演)2016年07月29日~2016年07月29日 キッコーマンアリーナ(千葉県、流山市)

Keiko Nakamura. Analysis of "health promotion paradox" featuring effective public health interventions. 7th International Conference on Public Health Greater Mekong Subregion 2015. (招待講演)(国際学会)2015年09月27日~2015年09月28日 フエ市(ベトナム)

〔図書〕(計1件)

Keiko Nakamura, Ai CJA. Diversities of Healthy Cities in Asia and the Pacific. Springer. 2016. 200頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

高野 健人 (TAKANO, Takehito)
東京医科歯科大学・医学部・非常勤講師
研究者番号: 80126234

(2)研究分担者

中村 桂子 (NAKAMURA Keiko)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授
研究者番号: 00211433

木津喜 雅 (KIZUKI Masashi)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・講師
研究者番号: 80431964

清野 薫子 (SEINO Kaoruko)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・講師
研究者番号: 10508336

森田 彩子 (MORITA Ayako)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・助教
研究者番号: 30595038

杉村 正樹 (SUGIMURA Masaki)
東京医科歯科大学・医学部・非常勤講師
研究者番号: 90770206

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()